令和 3 年度

入学者選抜学力試験問題

教

国　　語（前期）

〔注　　意〕

1. 監督者の指示があるまで，この冊子を開かないこと。
2. この冊子の問題は 13 ページからなる。落丁・乱丁および印刷の不鮮明な箇所などがあれば監督者に申し出て，問題冊子の交換を受けること。
3. 監督者の指示に従って，4 枚の解答用紙に受験番号および氏名を必ず記入すること。
4. 解答は，必ず解答用紙の指定された場所に記入すること。
5. 解答に字数制限のある場合は，句読点を字数に数えること。
6. 解答は，内容とともに，用語，表記，構文にも注意して書くこと。
7. この冊子は持ち帰ること。

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権の関係で公開できません。

1～7頁

問一　二重傍線部(ア)～(オ)のカタカナを漢字に改めなさい。

問二　傍線部Aについて、なぜそう言えるのか、七〇字以内で説明しなさい。

問三　傍線部B「それでも「果てしない海」という表現がまちがいだとはされない」のはなぜか、五〇字以内で説明しなさい。

問四　傍線部Cについて、なぜそう考えられるのか、六〇字以内で説明しなさい。

問五　傍線部D「日常の場面で言われる「からっぽの空間」とは、このような空間のことではない」と言えるのはなぜか、一〇〇字程度で説明しなさい。

問六　空(そら)とはどのようなものか、文章全体をふまえて四〇字以内でまとめなさい。

著作権の関係で公開できません。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

そもそも、奈良の都の御時、横佩右大臣豊成と申す人あり。才覚人に優れ、仁義を本として弥陀を憐れみ給ひけり。しかるに、この人、姫を一人持ち給ひ、中将姫と名付け、父母の寵愛なのめならず、数多の乳母を添へ、持て成しかしづき給ふ。

かの姫、三歳の御時、母上重き病を受け給ひ、色々の医薬を尽くし治せられけれども、その験なければ、顕密[注①]の高僧を招じ、大法・秘法を修せられけれども、まことに定業[注②]にやありけん、既に末期に及び、北の方、豊成を近付け参らせ、「我既に今を限りと覚ゆるなり。但し、冥途へ行く道には死出の山・三途の川とて難所のあると聞きしなり。君に契りを結びし時は、『火の中、水の底までも諸共に』と契りしに、まことにその御志朽ちせずは、閻魔[注③]の庭に送り付け給ひ(a)なんや」と仰せければ、豊成涙を流し、「まことに諸共に行く道ならば、A さこそあるべけれども、生まるる時も一人来たり、死する時も一人行く習ひなれば、たとひ同じ炎に身を入るるとも、全く死出の山、三途の友とはなるまじきなり。生を隔つれば親をも子をも知らず。業に任せて一人嘆くなれば、一心不乱に念仏申し、後世を弔ひ申さんこそ、まことの契りにては候ひけれ」と申させ給へば、北の方聞こし召し、「あはれ、今生の契りほどにはかなき事はあらじ。さりともと思ひつる人だにも誠の道には甲斐ぞなき。今は弥陀を頼み奉るより他に頼む方なし」とて、衣引き被き給ひけるが、ややありて、「あはれ、人の持つまじきものは子なり。思ひ切り往生せんと思へども、中将姫が事心に掛かり、二世[注④]の障りとなりぬべし。相構へて、中将姫が事、十にならんまで人に見せ給ふな。もしこれを背き(イ)給はば、草の陰にても恨み奉るべし。B 如何なる仏事を営み給ふとも嬉しく思ふべからず」と申し給へば、豊成聞こし召し、「君一人の御子にてもなし。我にも子なれば、御心安く往生を遂げ給へ」と仰せければ、北の方世に嬉しげに打ち笑み給ひ、中将姫を呼び、髪掻き撫で、苦しげなる息をつき、「人の果報はまちまちなりといへども、汝ほどに冥加[注⑤]なき者はよもあらじ。三歳を過ごさずして、C 我を先に立てて、嘆かん事こそ悲しけれ。相構へて念仏申し、後世を弔へよ」と、これを最期の言葉として、念仏唱へ、終に北邙[注⑥]の露と消え給へば、大臣殿も姫君も、天に仰ぎ地に伏し嘆き給へども、甲斐なし。（中略）

さるほどに、姫君七歳と申す春の頃、桜の咲き乱れたるを御覧じ給へば、幼い者二人来たり遊び(b)たるを、三十ばかりの男、二十六七の女房来たりて、かの二人の童を、男子をば男抱き、女子をば女抱きて帰りけり。姫君、御覧じて、「如何なる者ぞ」と御尋ねありければ、乳母承り、「彼の二人の童どものためには父母(c)にて候ふ」と言ひければ、姫君、聞こし召され、「何として自らには父ばかりありて母のなきぞ」と仰せければ、乳母、泣く泣く申しけるは、「君三歳の御時、(ウ)はかなくなり給ひ候ふ」と申しければ、中将姫は聞こし召され、「今までも知らざりけるこそ悲しけれ」とて、急ぎ父の御前に参り給ひて、「如何なる人にても母の形見と見奉り、慰みなん」と仰せければ、豊成聞こし召され、あまりに姫申すにとて、その夏の頃より俄(にはか)に北の方(D)迎へ給ふ。姫君は真の母のごとく露ほども背き給はず、従ひかしづき給ふ。

（『中将姫本地』による）

注 ① 顕密――顕教と密教。いずれも仏教の教えを意味する。 ② 定業――前世から定まっている苦楽の果報。
③ 閻魔の庭――死者を裁く閻魔王のいる場。 ④ 二世の障り――現世と来世にわたる障害。
⑤ 冥加――目に見えない神仏の助け。 ⑥ 北邙の露と消え――ここでは死去することの喩え。

問一 二重傍線部(a)～(c)について、それぞれ文法的に説明しなさい。

問二 波線部(ア)～(ウ)の主語としてふさわしいものをそれぞれ次の中から選びなさい。

豊成　　中将姫　　中将姫の母　　乳母　　高僧

問三 傍線部Aについて、「さ」の内容を明らかにして現代語訳しなさい。

問四 傍線部B・Cを現代語訳しなさい。

問五 傍線部Dについて、

Ⅰ 誰が誰を「迎へ」たのか、文中の語でそれぞれ答えなさい。

Ⅱ 「迎へ」た理由について、わかりやすく説明しなさい。

三　次の文章は王度『古鏡記』の一節である。王度は長安に帰る途中、程雄という人物の家に泊まった。そこに鸚鵡という名の美しい女が働いていた。王度の持つ鏡（「天鏡」）に照らされた鸚鵡は、「もうここにはいられない」といとまを告げた。以下はそれに続く部分である。文章を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

度疑注①精魅、引レ鏡逼レ之。(a)便云、「乞レ命。即変形。」度即掩レ鏡曰、「汝先自叙、然後変形、当レ捨注②汝命。」婢注③再拝自陳云、「某是華山府君廟前長松下千歳老狸、大行変惑、罪合レ至レ死。遂為府君捕逐、逃於河注⑤(ア)渭之間。為下注⑥邦陳思恭義女、蒙レ養甚厚、嫁鸚鵡与同郷人柴注⑦華。鸚鵡与レ華意不相愜、逃而東出韓城県注⑧。為注⑨行人李无傲所レ執。无傲粗暴丈夫也、遂将鸚鵡遊行数歳。昨随至レ此、注⑩忽爾見レ留。不意遭逢天鏡、隠レ形無レ路。」

度又謂曰、「汝本老狸、変形為レ人。豈不レ害レ人也。」婢曰、「(イ)変形事レ人、非レ有レ害也。但逃匿幻惑、神道所レ悪、自当レ至レ死耳。」度又謂曰、「欲レ

捨レ汝、可乎。」鸚鵡曰、「辱ニ公厚賜注⑪ヲ、豈ニ敢忘レ徳。(b)然天鏡一照不レ可レ逃レ形。但久為ニ人形、羞レ復ニ故体。願注⑫縅ニ於匣、許ニ尽レ醉而終。」度又謂曰、「縅ニ鏡於匣、汝不レ逃乎。」鸚鵡笑曰、「公適有ニ美言、尚許ニ相捨。縅レ鏡而走、豈注⑬不レ終レ恩。但天鏡一臨(B)鑑レ跡無レ路。(C)惟希ニ数刻之命、以尽ニ一生之歓耳。」度登時為ニ匣レ鏡、又為注⑭致酒。

（王度『古鏡記』による）

注
① 精魅――もののけ。
② 捨汝命――おまえの命を助ける。
③ 婢――召使いの女。鸚鵡を指す。
④ 華山府君――「華山」は山名、「府君」は郡の太守の尊称だが、ここでは神に用いる。華山の神。
⑤ 河渭之間――黄河と渭水のあたり。
⑥ 下邽陳思恭義女――「下邽」は県名、「陳思恭」は人名、「義女」は養女。
⑦ 柴華――人名。
⑧ 韓城県――県名。
⑨ 行人李无傲――「行人」は旅人、「李无傲」は人名。
⑩ 忽爾――突然に。
⑪ 厚賜――あついお情け。
⑫ 縅於匣――(鏡を)箱にしまう。
⑬ 豈不終恩――どうしてあなた様のご恩が無駄になりましょうか。
⑭ 致酒――酒宴の準備をする。

問一　二重傍線部(a)・(b)を、送り仮名も含めてすべてひらがなで書き下しなさい。現代仮名遣いでもよい。

問二　波線部(ア)とあるが、このあと鸚鵡が程雄の家で働くまでのいきさつを、関わった人の名前を入れつつ順を追って説明しなさい。

問三　波線部(イ)をすべてひらがなで書き下しなさい。現代仮名遣いでもよい。

問四　傍線部A・Bを現代語訳しなさい。Bについては「故体」の指す内容を明らかにして訳すこと。

問五　傍線部Cについて、ここには鸚鵡のどのような気持ちがこめられているのか、七〇字程度で説明しなさい。